

IIAS NEWS LETTER

1998年4月

国際高等研究所

編集・発行 / 国際高等研究所

〒619-0225 京都府相楽郡木津町木津川台9-3

TEL: 0774-73-4001 FAX: 0774-73-4005

http://www.iias.or.jp/ e-mail: www_admin@iias.or.jp

新旧理事長挨拶

就任挨拶

新理事長 新宮 康男



このたび財団法人国際高等研究所の理事長に就任することになりました。本研究所の更なる発展に向けて、沢田敏男所長をはじめ研究所の方々や関係自治体、経済界の皆様と力を合わせ、努力してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

さて本研究所が位置する関西文化学術研究都市は、1978年の関西学術研究都市調査懇談会（奥田東会長）の提言以来、産学官の協調の下、建設が進められてきました。これまでに約60の施設が開設すると共に、国立国会図書館関西館（仮称）や光量子科学研究センター（仮称） 勤労体験プラザ（仮称）等の計画が進むなど、都市建設は順調に進んでいると言えます。

しかし一方で昨年のセカンド・ステージ・プランで述べられているように、「21世紀の文化・文明を創造する新文化首都を建設する」という都市建設の理念を顧みれば、残された課題も少なくありません。このため現在、産学官が協力して、文化学術研究の中核としての機能の充実、世界に開かれた文化学術交流の推進、文化の薫る、住みよいまちづくりの推進という三つのテーマについて具体方策を検討していますが、その中で本研究所は、新たな学術研究システムの構築や多様な交流・連携の推進等の取り組みにおいて、今後より一層の役割を果たすことが期待されています。

私は、このように“人類の未来と幸福のために何を研究すべきかを研究する”という本研究所の理念が今日より一層重要性を増している状況を胸に刻みつけ、本研究所が引き続き先進的な研究や国際交流を積極的に実施すると共に、そこから得られた成果をわかりやすく発信することにより、関西文化学術研究都市の理念の実現に貢献していきたいと考えております。

皆様には、引き続き国際高等研究所へのご支援ならびにご協力を賜りますようお願いし、ご挨拶といたします。

退任挨拶

前理事長 岡本 道雄



このたび財団法人国際高等研究所の理事長を退任致すこととなりました。顧みますと1984年8月本財団の発足以来、副理事長、初代所長、そして理事長と、合計14年の長きにわたってつとめさせていただきました。

更に高等研究所の構想以来、今日に至るまでには20有余年を経ています。この間一貫して全身全霊を傾けてその実現に力を注がれましたのは、故河野卓男氏と奥田東先生の名コンビであります。もしこのお二人がなかったら今日の高等研は存在しませんが、この間産業界、官界、学界各界の方々の大きなご協力に対し深甚の感謝を捧げます。

財団設立時の資金調達、その際の地方自治体、政府、文部省の協力、次いで本格的募金の際の関西経済連合会を中心とする関西経済界の皆様のご支援、そして最後に建物建設時の資金難。一々の御尊名を述べることは致しませんが、これを思い返しますと深い感謝と共に今更のように責任の重大さを痛感します。

そのような長く困難な歴史を共にすることができ、今回この文化学術研究都市のセカンドステージプランに参画できました私として、今この時高等研究所の役割を考えますと、それは一つには高度で創造的学問研究を生む世界的頭脳集団であること、今一つは21世紀の人类的課題の解決を目標としたモデル都市建設の中核的存在となることでもあります。しかもその研究分野は人類の未来と幸福のためという困難かつ広いものでありまして、早急に結論の出るものではありませんので急ぐことはありませんが、目標をはっきりして、国際的で活発な学術的討論が本研究所の生命であります。

高等研は此度財界から最高のリーダーをお迎えすることができました。これは設立以来15年の経験を基とした高等研の新しい出発であります。創立者の一人として本研究所の着実な発展を祈って挨拶とします。

1998年度事業計画

1998年3月16日に開催された理事会（第37回）・評議員会（第32回）において、国際高等研究所が関西文化学術研究都市における中核的施設として機能を果たすこと及び学者村構想実現化のための礎を築くことを目指して、研究事業の一層の活性化を図ることとされた。承認された事業計画の概要は下記のとおりである。

総 括

1. 卓越した研究者の招へい

本研究所の研究環境を活かし、研究活動の活性化を図るため、国内外の卓越した研究者を「招へい学者（IIAS Fellow）」として招へいするとともに、各分野で中核として研究を推進している研究者を「招へい研究者（IIAS Researcher）」として招へいする制度を新設する。

2. 若手研究者の育成

優秀な若手研究者の研究を奨励するため「特別研究員」制度を活用し、若手研究者の育成を図る。

3. 研究事業の推進

1998年度から、新たに3研究プロジェクト（課題研究）を発足させるとともに、日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」の一つとして新規プロジェクトを推進する予定。

なお、これまでの「課題研究」並びに「準備研究」の他に、新たに短期間の研究を行って、成果の取りまとめを行う小規模のプロジェクトや、学術フォーラム等を開催し、研究活動の一層の活性化を図る。

4. 研究成果の取りまとめ及び評価

1997年度で終了する研究プロジェクトについて、その研究成果を1998年度内に取りまとめる。また、研究成果の一層の公表のために、学術出版や研究成果を一般に公開する講演会の開催等につとめる。

また、研究成果に関する評価システムの確立を図る。

5. 研究環境の整備

及び情報発信機能の充実

本研究所の情報基盤を整備・拡充し、高度情報化に向けた取り組みを推進する。情報メディアを活用し、研究活動及び研究成果の公表を行うとともに、学術出版や広報活動等についても積極的な展開を図る。

6. 研究資金の充実

運用財産の一部を研究資金として活用するとともに、公的資金の導入を図る。また、企業等の協力を得て賛助会員の募集に取り組み、研究資金の安定確保に努める。

研究事業

1. 課題研究

1998年度には、継続研究である3プロジェクトと、1997年度の準備研究の成果を踏まえて課題研究に移行する3プロジェクトの計6プロジェクトを推進する。

(1) 「人類の自己家畜化現象と現代文明」

(1996年度開始、98年度終了予定)

文明の支配下に起こる自己家畜化というメタファーを様々な専門分野の研究者によって検討し、現代文明下のヒトにあらわれる身体や行動の諸問題に対処する基本的な理念の創造を目的とする。

研究代表者：尾本 恵市（人類進化学）

国際日本文化研究センター教授

国際高等研究所特別委員

(2) 「生命体の多様性」

(1996年度開始、98年度終了予定)

多様な生物について個別的に進められてきた研究と共に、生物学の広い範囲を解析する手法が出現している。生物学のさまざまな分野の研究の技法を統合して多様性の研究を推進するべく、課題の探索と具体的な組織化を目指す研究を行う。

研究代表者：岩槻 邦男（植物分類学）

立教大学理学部教授

国際高等研究所企画委員

(3) 「言語の脳科学」

(1997年度開始、99年度終了予定)

言語心理学、神経心理学、発達心理学、認知科学、計算論的神経科学などの研究を背景に、言語の獲得に関わる脳内過程について理論的枠組みの構築を目指す。

研究代表者：乾 敏郎（心理学、認知科学）
京都大学文学部教授
国際高等研究所企画委員

(4) 「生物研究と生命 - 生物学の統合化と生命概念形成への寄与 - 」

(1998年度開始、2000年度終了予定)

20世紀の生物学の成果から生まれつつある統合生物学は還元主義では把握できない生命の現象にも眼を向けさせつつある。生命誌の研究を中心に納得のいく生命観を提案する方向に向けて研究を行う。

研究代表者：中村 桂子（生命科学・生命誌）
生命誌研究館副館長
国際高等研究所企画委員

(5) 「科学の文化的基底」

(1998年度開始、99年度終了予定)

科学の文化的基盤ないし背景を、古代オリエントの科学、ギリシャの科学、インドの科学、中国の科学、イスラムの科学、中世ラテン世界の科学、近代ヨーロッパの科学等について比較考察し、さらに現代科学の文化的基底を明らかにして、21世紀における科学と文化のあるべき関係を考える。

研究代表者：伊東 俊太郎（科学史・科学哲学）
麗澤大学比較文明研究センター
教授・センター長
国際高等研究所特別委員

(6) 「環境と食糧生産の調和に関する研究 - 人類生存の視野から - 」

(1998年度開始、2000年度終了予定)

人口の増大に伴う環境問題と食糧生産のジレンマは深刻である。地域環境、食糧生産、人口、発展途上国の課題などを考慮しつつ国際食糧問題と食糧政策について共同討議を重ね、課題解決の見取り図を描き出すことを目的とする。

研究代表者：渡部 忠世（農学・作物学）
京都大学名誉教授
国際高等研究所企画委員

**2. 日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業
「情報市場における
近未来の法モデル」(予定)**

情報社会における情報と知的財産の創造と流通に関する著作権市場「コピーマーケット」について、法モデルを策定することを目的としている。

具体的な研究課題は、1) 情報社会の構成単位である知識ユニット論、2) コピーマーケットモデルのハードウェア・ソフトウェアのシステム研究、3) 革新的な技術のモデル化によるコピーマーケットモデルの構築、4) コピーマーケットモデルの法的分析、5) 科学の発展、デジタル技術の浸透、経済のグローバル化、地球環境保護、紛争解決制度、知的財産、人間と社会、国際機構と国家法秩序等に関わる重要問題へのコピーマーケットの応用研究に分かれる。

研究代表者：北川 善太郎（民法）
国際高等研究所副所長

3. 準備研究

準備研究とは、本研究所の課題研究になり得るか否か、また、数年に亘る研究を行うとしたらどのような研究計画をたてるべきか、概ね1年を目途に検討を行うものである。

1998年度には、次の5課題をとり上げる。

(1) 「臨床哲学の可能性**- 生命環境の諸問題を軸として - 」**

「臨床哲学 (clinical philosophy)」とは、現実社会に生じる「哲学的な治療」を必要とする問題を、「医者」ではなく「患者」の立場で考えていこうとする新しい試みである。

具体的には、人が生きる現場に生じる問題から出発して、新たな概念や思考のスタイルを紡ぎ出していこうとするものであり、クローン人間、脳死、遺伝子組み換え食品、公的介護、生殖技術等の「生命環境」をめぐる問題に焦点を絞って取り組む予定である。

研究代表者：野家 啓一（哲学）
東北大学文学部教授

(2) 「物質科学の新しい展開を目指して」

新しい機能をもつ物質の開発は、無限の可能性を秘める研究分野である。

これらの新物質を発見するまでの経過は様々であるが、化学と物理の両分野にまたがる推論と実験が基礎となる。理論面では高温超伝導の発見以来、強相関電子集団が今までの単純な抽象では理解できない様々な可能性をもつことが徐々に解明されてきたが、その全体像はいまだに未知の間に隠れている。一方、化学及び物理両サイドから理論計算による物質生成過程の研究が進められていたが、最近よ

うやく両者の融合が実現しつつある。さらに、物質加工の面でも、ナノメーターのシステム工学が展開されているが、これは新機能物質の開発と密接に関連した分野である。

ここで物理と化学の協力を促進し、さらに物質加工も含んだ物質科学の新しい発展が生まれるような幾つかのフォーラム、研究会を開催し、物質科学ならびに物質工学（単原子から物質構築）の立場から、物性解明方法を探索する。

研究代表者：金森 順次郎（物性物理学）

大阪大学名誉教授

（３）「政府統治（government governance）の研究 - 現代日本政府の統治構造 - 」

現在のわが国においては、政府の過剰介入がむしる弊害と見なされつつあり、政府の行動と公共目的が乖離し様々な諸問題が噴出している。また、行政改革の試みが成果を上げられないのは、政府統治の問題に対して十分な理論的検討がなされていないことに起因している。そこで、政府をいかに機能させるのか、統治者としての政府を統治する者は誰か、政府の改革が進展しないのは何故か、という根本的な問いかけが大きな意味を持っている。

本研究は、政治哲学の問題に対して、組織理論を用いることにより経済学的に接近しようとする学際的な取り組みである。

この研究プロジェクトでは、１）政府の役割、２）政府の内部組織、３）政府・企業間関係の規制、４）公共事業の費用便益分析と政治的意思決定の４サブテーマを設け、日本型政府の政府統治（government governance）の理論の構築を目指す。

研究代表者：本間 正明（公共経済学）

大阪大学経済学部教授

（４）「複雑系と社会科学の方法」

社会科学の分野に限定して、複雑系が社会科学の方法や、哲学にもたらす新しい考え方を総合的かつ鋭角的に探ることを目指す。具体的な課題は、１）複雑さへの再認識による社会科学の批判・反省、２）複雑さを考慮に入れた社会科学の研究プログラム、３）科学観の変革である。

研究代表者：塩澤 由典（数理経済学）

大阪市立大学経済学部教授

（５）「ヒト遺伝子解析及び遺伝子医療に伴う倫理問題とそれへの対応」

遺伝子医療など先端的医療が次々と現れつつある現在、その適用に対する指針は一部の学会の方針にとどまっているケースが多い。遺伝子を扱うことに関わる倫理観を、そのままには受け入れ難い文化、社会、宗教的な背景を有するわが国（アジア圏）では、個人の遺伝子情報を扱ったり

遺伝子医療を導入するさいに明確な倫理基準とそのための論理が必要となる。

本研究は、このような問題を、医学・生物学研究の立場を中心に総合的に研究し、具体的な対応について提案することを目指す。

研究代表者：武部 啓（遺伝学）

近畿大学原子力研究所教授

4. 受託研究

1996年度の準備的調査研究、1997年度「JEMの人文社会的利用法に関わる調査研究（その２）」に引き続き、宇宙開発事業団より受託する予定である。

これは、2001年に予定される地球周回軌道上の宇宙ステーション取り付け型日本実験モジュール（JEM）の打ち上げを契機として、人文・社会科学領域からみたJEMの活用方策、ならびにその意義に関して基礎的な調査研究を行うものである。

5. 共同研究事業

京都大学数理解析研究所との共同研究

昨年度に引き続き、京都大学数理解析研究所との共同研究を、「財団法人国際高等研究所と京都大学数理解析研究所との共同研究事業に関する協定書」に基づき、ワークショップの開催を主として実施する。

情報・出版事業ならびに研究成果の公表

1997年度に研究事業が終了した下記の課題研究プロジェクト、ならびに特別研究「沼記念プロジェクト」について、研究成果を取りまとめる。また、学術出版、研究成果を公開する講演会や国際シンポジウムの開催等を進める。

- （１）課題研究「安全科学」
- （２）課題研究「数理解析」『複雑系の秩序と構造』
- （３）課題研究「哲学」『情報論的転回』
- （４）課題研究「比較幸福学」
- （５）課題研究「社会情報学」
- （６）課題研究「わざ学」
- （７）特別研究「沼記念プロジェクト」

一般公開事業

1. 一般公開講演会

けいはんな学研都市における開かれた研究所として地域社会との連携協力を深めるため、公開講演会を企画・開催する。

2. 『親子』サイエンス・スクール

「少年・少女」サイエンススクールは、21世紀を担う子供達を対象に、著名な研究者との触れ合いを通して創造性と科学への夢を導き出すことを目的として、1994年度から始めたセミナー事業で、日帰りの「親子」サイエンススクールを予定している。

広報活動

1. 広報誌「こうとうけん」ならびに「IIAS NEWS LETTER」の発行

広報誌「こうとうけん」ならびにニュース誌「IIAS NEWS LETTER」の一層の充実を図り、関係機関ならびに関係者に配布する。

2. インターネットホームページの充実

本研究所の概要と活動内容等を広報するインターネット上のホームページを整備・充実する。

ホームページのアドレスは、「<http://www.iias.or.jp/>」

1998年度招へい研究者（予定）

本年度は、6月1日から梅原猛国際日本文化研究センター名誉教授を、9月15日から森嶋通夫ロンドン大学名誉教授を、それぞれ2ヶ月間招へいすることが確定している。また、坂井利之京都大学名誉教授、田中郁三東京工業大学名誉教授、西島和彦東京大学名誉教授、巽友正京都大学名誉教授の招へいが予定されている。

1998年度特別研究員

本年度は、前年度から継続する2名に加えて新たに、松村博史氏（京都大学文学部博士課程修了、仏文専攻）、向井史郎氏（京都大学農学部博士課程修了、1997年3月博士〈農学〉取得）を採用した。期間は2カ年間。

課題研究 研究会メンバーリスト

（*印は代表 五十音順・敬称略）

（1）「人類の自己家畜化現象と現代文明」

芦澤 玖美	大妻女子大学 人間生活科学研究所 教授	谷 泰	滋賀県立大学人間文化学部 教授
石井 紫郎	国際日本文化研究センター 教授	土居 範久	慶應義塾大学 理工学部 教授
石 弘之	東京大学大学院総合文化研究科 教授	中山 生成	中山獣医科病院 院長
大平 健	聖路加国際病院 精神科 部長	埴原 和郎	東京大学名誉教授
*尾本 恵市	国際日本文化研究センター 教授	林 良博	東京大学 農学部 教授
川田 順造	広島市立大学国際学部 教授	福井 勝義	京都大学 総合人間学部 教授
桑原 未代子	藤田保健衛生大学医学部 助教授	藤田 紘一郎	東京医科歯科大学 医学部 教授
佐伯 胖	東京大学大学院教育学研究科 教授	松井 健	東京大学 東洋文化研究所 教授
武部 啓	近畿大学原子力研究所 教授	吉田 民人	中央大学文学部社会学科 教授
		吉田 眞澄	同志社大学法学部 教授

(2) 「生命体の多様性」

- 伊藤 元己 千葉大学理学部生物学科 助教授
 * 岩槻 邦男 立教大学理学部 教授
 上島 励 東京大学大学院理学系研究科 講師
 加藤 雅啓 東京大学大学院理学系研究科 教授
 斎藤 成也 国立遺伝学研究所集団遺伝研究系
 助教授
 佐藤 矩行 京都大学大学院理学研究科 教授
 杉山 純多 東京大学分子細胞生物学研究所 教授
 西田 治文 中央大学理工学部 教授
 西田 睦 福井県立大学生物資源学部 教授
 長谷部 光泰 岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所
 助教授
 原 慶明 山形大学理学部 教授
 矢原 徹一 九州大学理学部 教授
 山森 哲雄 岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所
 教授
 渡辺 隆夫 京都工芸繊維大学繊維学部 教授

(3) 「言語の脳科学」

- * 乾 敏郎 京都大学文学部 教授
 大津 由紀雄 慶應義塾大学言語文化研究所 教授
 飯田 仁 ATR音声翻訳通信研究所 室長
 石居 康男 神田外語大学外国語学部 助教授
 大槻 美佳 新潟大学脳研究所神経内科 研究員
 落合 正行 追手門学院大学人間学部 教授
 川人 光男 ATR 人間情報通信研究所 室長
 小西 淳二 京都大学大学院医学研究 教授
 水光 雅則 京都大学総合人間学部 教授
 田中 茂樹 岡谷病院 内科医師
 田邊 敬貴 愛媛大学医学部 教授
 寺尾 康 常葉学園短期大学 助教授
 中川 賀嗣 大阪大学医学部 助手
 西澤 貞彦 京都大学大学院医学研究 助手
 波多野 誼余夫 慶応義塾大学文学部 教授
 牧岡 省吾 大阪女子大学学芸学部 講師
 山鳥 重 東北大学大学院医学系研究科 教授

(4) 「生物研究と生命 - 生物学の統合化と
生命概念形成への寄与 - 」

- 岡田 節人 生命誌研究館 館長
 岡田 益吉 筑波大学名誉教授
 * 中村 桂子 生命誌研究館 副館長
 松原 謙一 国際高等研究所 副所長
 柳田 充弘 京都大学理学部 教授

(5) 「科学の文化的基底」

- 伊藤 和行 京都大学大学院文学研究科 助教授
 * 伊東 俊太郎 麗澤大学比較文明研究センター
 教授・センター長
 江尻 宏泰 大阪大学核物理研究センター
 センター長
 大野 誠 愛知県立大学外国語学部 助教授
 小川 真里子 三重大学人文学部 教授
 金子 務 図書館情報大学情報社会関係論学部
 教授
 楠葉 隆徳 大阪経済大学経済学部 教授
 佐藤 徹 東京医科歯科大学教養部 教授
 鈴木 孝典 東海大学文明研究所 助教授
 高橋 憲一 九州大学大学院比較社会文化研究科
 教授
 塚原 東吾 東海大学文学部 講師
 野家 啓一 東北大学文学部 教授
 橋本 敬造 関西大学社会学部社会学科 教授
 三浦 伸夫 神戸大学国際文化学部 教授
 矢野 道雄 京都産業大学国際言語科学研究所 教授
 山本 啓二 京都産業大学外国語学部 非常勤講師
 横山 輝雄 南山大学文学部 教授

(6) 「環境と食糧生産の調和に関する研究
- 人類生存の視野から - 」

- 海田 能宏 京都大学東南アジア研究センター 教授
 掛谷 誠 京都大学アフリカ地域研究資料センター
 教授
 久馬 一剛 滋賀県立大学環境科学部 教授
 高瀬 国雄 財団法人国際開発センター 理事
 高村 泰雄 京都大学アフリカ地域研究資料センター
 教授
 辻井 博 京都大学大学院農学研究科 教授
 坪内 良博 京都大学東南アジア研究センター 所長
 西尾 敏彦 農林水産技術情報協会 理事長
 福井 勝義 京都大学総合人間学部 教授
 * 渡部 忠世 京都大学名誉教授

財団法人国際高等研究所役員の改選

任期満了に伴い、1998年3月16日開催の理事会・評議員会において、下記のとおり役員が選任された。
任期は1998年4月1日より2カ年間。（*：新任 ：交代 ：異動 五十音順・敬称略）

理事長（1）

新宮 康男 (社)関西経済連合会 会長

副理事長（4）

関本 忠弘 (社)経済団体連合会評議員会 副議長

立石 義雄 オムロン(株) 社長

西八條 實 (株)島津製作所 会長

松下 正治 (社)関西経済連合会 相談役

専務理事（1）

* 関 淳 (社)関西経済連合会 常任理事

理事（24）

荒巻 禎一 京都府 知事

稲盛 和夫 京都商工会議所 会頭

宇野 収 関西文化学術研究都市建設推進協議会
会長

大崎 仁 日本学術振興会 理事長

大西 正文 大阪商工会議所 会頭

柿本 善也 奈良県 知事

* 金森 茂一郎 近畿日本鉄道(株) 会長

岸本 忠三 大阪大学 総長

小林 庄一郎 関西電力(株) 相談役

小松 新 京都経営者協会 会長

近藤 次郎 (財)地球環境産業技術研究機構
前研究所長

坂部 三次郎 (社)京都工業会 会長

* 阪本 道隆 奈良商工会議所 会頭

沢田 敏男 (財)国際高等研究所 所長

千田 哲朗 (社)京都経済同友会 代表幹事

塚本 幸一 (株)ワコール 会長

鳥井 信一郎 (社)関西経済同友会 代表幹事

長尾 眞 京都大学 総長

蓮實 重彦 東京大学 総長

三野 重和 (社)大阪工業会 会長

三好 俊夫 関西経営者協会 会長

山田 勇 大阪府 知事

山田 康之 奈良先端科学技術大学院大学 学長

* 新井 輝隆 (財)国際高等研究所 事務局長

監事（2）

秋元 満 (社)京都銀行協会 会長

海保 孝 (社)大阪銀行協会 会長

評議員（43）

相賀 一郎 大阪府立大学 学長

浅田 和男 日本電信電話(株) 副社長・関西支社長

有馬 朗人 理化学研究所 理事長

井植 敏 三洋電機(株) 会長

石川 啓 関西大学 学長

石毛 直道 国立民族学博物館 館長

石田 明 大日本スクリーン製造(株) 社長

市野瀬 浩 日本新薬(株) 社長

井上 礼之 ダイキン工業(株) 社長

井口 洋夫 (財)国際高等研究所 副所長

* 今田 寛 関西学院大学 学長

宇野 郁夫 日本生命保険(相) 社長

梅田 貞夫 鹿島建設(株) 社長

浦上 敏臣 住友生命保険(相) 会長

* 大南 正瑛 立命館大学 総長

大林 芳郎 (株)大林組 会長

岡田 明重 (株)さくら銀行 頭取

岡田 敏彦 ムーンバット(株) 会長

河合 隼雄 国際日本文化研究センター 所長

北川 善太郎 (財)国際高等研究所 副所長

木田 宏 日本学術振興会 顧問

熊本 昌弘 (株)神戸製鋼所 社長

倉内 憲孝 住友電気工業(株) 社長

栗山 欣弥 京都府立医科大学 学長

児玉 隆夫 大阪市立大学 学長

佐伯 尚孝 (株)三和銀行 頭取

千 宗室 (財)裏千家 今日庵 家元

武内 伸允 東洋信託銀行(株) 社長

竹中 統一 (株)竹中工務店 社長

戸田 敏彦 木津町 町長

鳥居 泰彦 慶應義塾大学 塾長

西川 善文 (株)住友銀行 頭取

西塚 泰美 神戸大学 学長

浜 清 岡崎国立共同研究機構 機構長

* 広原 盛明 京都府立大学 学長

牧 冬彦 神戸商工会議所 会頭

松原 謙一 (財)国際高等研究所 副所長

松山 義則 (学)同志社 総長

丸山 和博 京都工芸繊維大学 学長

村上 仁志 住友信託銀行(株) 会長

森田 桂 武田薬品工業(株) 相談役

門田 研造 川崎製鉄(株) 会長

事務局関係者の移動

(1) 二松 康事務局長の退任

1994年4月から、京セラ(株)より出向いただき、財団運営にご尽力された二松 康氏が、1998年3月末で停年退職により退任。

(2) 新井輝隆研究所顧問の理事・事務局長就任

新井輝隆研究所顧問(1997年4月就任)が、1998年4月から理事・事務局長に就任。

(3) 総務部長の交替

石川 進前総務部長の近畿日本鉄道(株)への復帰により、1997年11月より空席になっていた総務部長に、1998年3月から近畿日本鉄道(株)より出向の影浦秀蔵氏が就任。

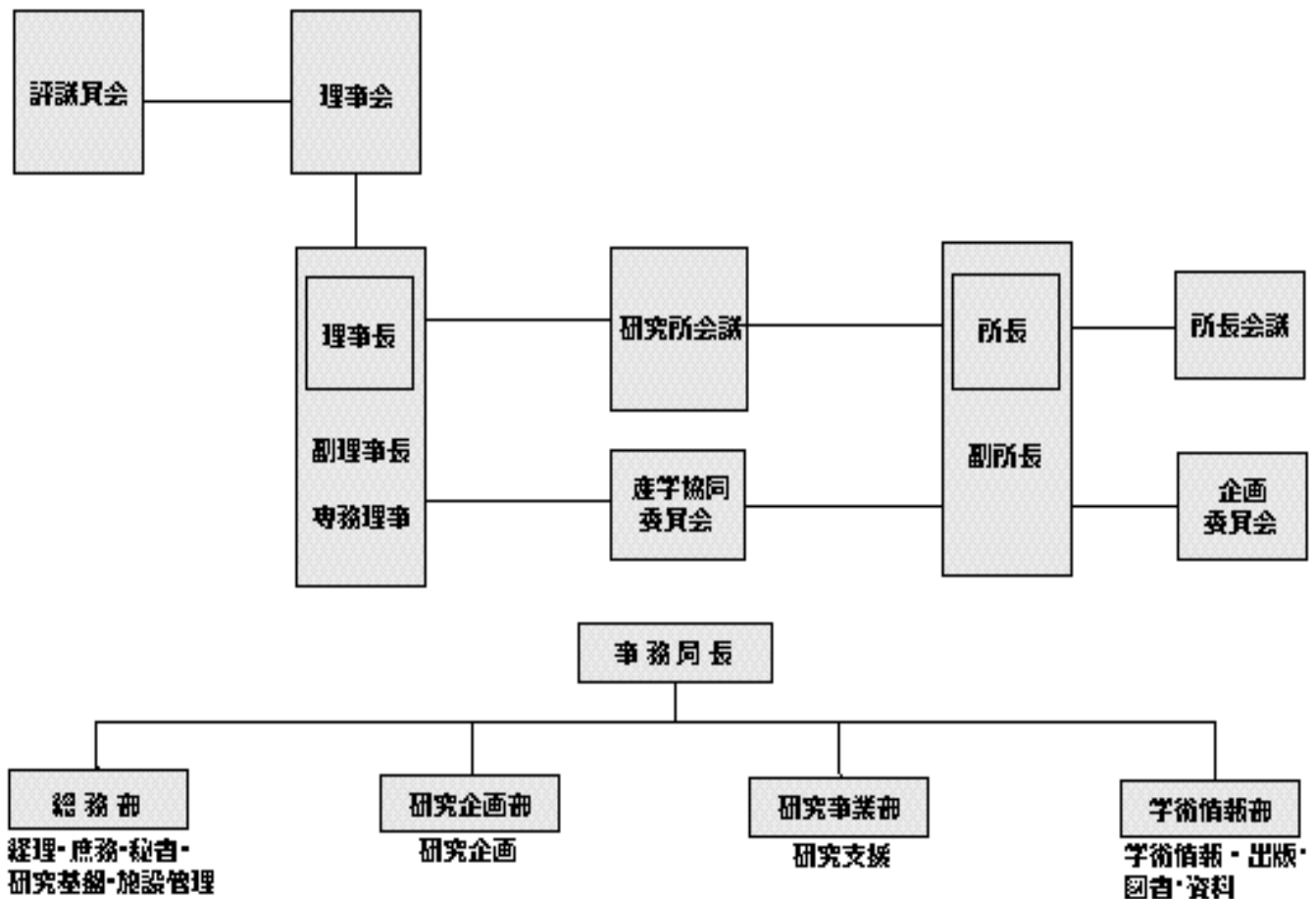
(4) 学術情報部の設置

1998年4月から、研究所事務局組織として新たに学術情報部を設け、オムロン(株)より出向の鈴木康夫氏が同部長に就任。

財団法人 国際高等研究所 組織図

TEL: 0774-73-4001

FAX: 0774-73-4005

<http://www.iias.or.jp/>

理事長: 新宮 康男

副理事長: 関本 忠弘
立石 義雄
西八徳 齊
松下 正治

専務理事: 関 淳

所長: 沢田 敏男

副所長: 井口 洋夫
北川 善太郎
松原 謙一

事務局長: 新井 輝隆

総務部長: 影浦 秀蔵
研究企画副部長: 牧井 俊明
研究事業部長: 草木 良子
学術情報部長: 鈴木 康夫